



令和3年度

多北高 FRH 通信 第15号

令和4年1月21日(金)

多北高 FRH 推進委員会
探究推進部

図書館講座「多治見修道院について学ぶ」

修道院は、常に目にする建物であり高校生活の風景の一部となっていますが、三年間一度も足を踏み入れることなく卒業してしまう人もいます。聖堂内部を見学し、直接、神父の方から歴史や地域との関わりについて話をうかがい、地域に対する理解を深める、という機会を設けました。



日時 令和3年12月21日(火) 14:00~15:00

内容 講義、聖堂見学、パイプオルガン演奏の鑑賞

*アルディー・ハヨン主任神父によるお話

*内部見学後、外部見学ツアー(ぶどう園・ルルドの泉・外国人宣教師の墓など)

参加生徒の感想

○ 私はキリスト教の文化に触れてみたいと思い、今回の講座に参加しました。日本国内にいとあまり宗教的なものを感じる機会がないので、この機会にそういったものを肌で感じられてよかったですと思います。クリスマスという行事の重みや重要性を、改めて感じられました。イエス様誕生にはいろいろなことが関与していて、私が思っていたほど単純なものではないと感じました。

また特に心に残っているのはお墓です。日本のお墓とは何か雰囲気違って、不思議な感じがしました。世界の人々と交流するにあたって、その人のバックグラウンドを理解するのはとても重要なことだと思うので、よい経験になったと思います。ありがとうございました。

○ 修道院の中に初めて入ってみて、お像や壁に描かれている絵を見て感動しました。修道院やカトリック教会などについての知識を増やすことができたのを、とても嬉しく思いました。神父さんはインドネシア出身で、他にもブラジルやベトナム、フィリピンなどから来ている方が多いと聞いてびっくりしました。

またクリスマス飾りの意味について、初めて知りました。いつも何気なくクリスマスツリーの一番上につけていた、星に込められた意味などを知ることができて良かったです。本来、まだ25日ではないので、イエスキリストはお生まれになっていませんが、特別に見せてもらったのが嬉しかったです。パイプオルガンの演奏や歌を聴けたのがとても印象に残りました。カトリックとプロテスタントの見分け方が、わかるようになりました。

○ ブドウ園までは行ったことはありましたが、聖堂に入ったことはなかったので、今回中まで入ってお話を聞くことができて良かったです。もともと知っていた知識や、倫理で習った知識を用

いながらお話が聞けたので、とてもためになりました。アルディー神父がとても優しい方で、質問にも快く答えて下さり、有難かったです。ローマ法王の説明や、クリスマスの前日、イヴをなぜ祝うのか、疑問には思っていたものの調べるまではしていなかったものに答えがでて、すっきりしました。また、キリスト教と日本文化のイメージがなかったので、聖堂の中で七五三のお祝いをしているところや、振袖で聖堂の中で写真を撮っているところを見て、日本の行事を聖堂で祝うことがあるんだと思いました。とても意外だったので、今回の図書館講座で知ることができよかったですと思いました。

また、どの修道院に行くかが世界単位で決められていると知って驚きました。日本の中で決まっていると思っていたので、国をまたぐとなると、言葉の壁も大変だなと思いました。

○ 私は2年生のうちに参加できてよかったと思いました。実を言うと、1年生の時にも参加したいと思っていたのですが、その時は予定が合わなくて参加できませんでした。私は子供のころからマンガの中に出てくる教会や修道院に興味があり、多治見北高校に入学してからは、その姿を見るたびに、どのようなところなのだろうかと興味を持っていました。そして今回初めて入ってみて、とても厳粛な場所だと感じました。特に至る所にある御像がそのような雰囲気醸し出していました。

パイプオルガンの演奏もありました。私は初めてパイプオルガンを聴いたので、とても新鮮で、心の細部にまで染みわたりました。今回は貴重な体験ができ、とても良い経験になりました。他の宗教との違いも調べてみたいと思いました。

